

2018年(平成30年)

18日 日曜日  
1511号 日刊

# 日高新報

10面関連記事は、  
次ページへ。

## 心からの歓迎に感激

### 和田勇氏次女 14年ぶりに御坊へ

御坊市名誉市民第一号で、1964年の東京オリンピック誘致に尽力した故和田勇氏の次女メアリー・マリコ・ロースさん(77)と「アメリカ・カリフォルニア州在住」が17日、同日の顕彰イベントに合わせて夫のアレント氏(72)と一緒に来日した。16日には柏木征夫市長の表敬訪問や、夜には和田勇顕彰会(会長「吉田擴御坊商工会議所会頭」)主催の歓迎会に出席。マリコさんは「父は御坊を誇りに思っていた」と両親の故郷で思い出を語った。

(10面に関連)



歓迎会で花束を手に笑顔のマリコさんとアレントさん

メアリーさんは2004年4月、名誉市民授与式に、和田氏の長女で昨年死去した故クレス・ミヤコ・宮本さんとも出席し、柏木市長を表敬訪問し、今回は14年ぶりの御坊訪問。

これらもみんなで盛りの活動だけでなく、民上げて、広く長く伝え、問企業にも和田さんをしていきたい」とあいさつPRする活動が広がった。顕彰会の阪本仁志(72)は「和田さんの素通り、親切で穏やかな副会長は出席できない。晴らしい心の持ち方をかかった吉田会長のメツ日本全体に広げていき、セージとして「顕彰会たい」と代読。日高振だ。JA紀州の芝光洋

興局の三浦源吉局長も知事からのメッセージを披露した。花束を受け取ったマリコさんは「父も母もきつこの場にいたいと思っているでしょう。父や母から聞いていた、美しい海や川、花に囲まれた御坊に

組合長の発声で乾杯、料理を食べながら和やかに歓談。アトラクションでは土生祭の藤井若中(御坊市)が獅子舞を披露し、盛り上がった。最後にアレントさんは「皆さんから歓迎を受けたことを心に刻んでいます」と感激した様子で話した。歓迎会の前には柏木市長を表敬訪問。マリコさんは和氏が幼少期に御坊などで過ごしたことを踏まえ、「父は御坊を誇りに思っていた、美しい海や川、御坊が故郷でよかった」と御坊が大好きだったと強調。「アメリカのカウボーイ音楽や日本の歌が好きで、よくうたっていました」「家ではいつもタバコを吸いながら、仕事のことやいろんなことを考えていました」などと思い出話も披露していた。



# 父の資料館も見学

## マリコさんとブレントさん



片山館長に写真を説明するマリコさん⑥

和田勇氏の二女マリコさんとブレントさんは16日、歓迎会の前に御坊寺内町会館の和田勇資料館を見学。資料館には和田氏の新たな写真を提供し、御坊や印南町の親戚とも親交を深めた。

資料館では、展示されているパネルやゆかりの品を觀賞し、アメリカから持参した19歳のときの母、両親の結婚式、和田氏が南米のオリンピック関係者と話す様子、家族で写したプライベート写真など約20点を寄贈。同会館の片山隆館長に写真1点1点を説明した。

和田氏の妹筋の親戚にあたる名田町野島の堀井和範さん(62)・博代さん(55)夫妻、印南町島田の山田恵之さん(68)・美代子さん(61)夫妻も訪れ、マリコさんは「信じられないくらい素晴らしい資料館。父が日本のために頑張ったことがよく分かります」と感激。「御坊の人は心の温かい人ばかり。山、川、海、畑が豊かで、小さいまちですが、すごく広く感じます」と笑顔いっぱいだった。